

【総括表（STEP1）のイメージ】

個別検討シートの内容を踏まえ、中項目毎を基本に記述。  
記入の方法については、32頁を参照。

大分類		中分類		検討項目	コメント・評価(中分類毎)	対応レベル	対応時期		
							直近	短期	中長期
外的要因	事業環境	水源	水源の種類・水源の位置	水源は安定しており、年間取水量もほぼ一定。水質については、通常レベルで問題はないものの、水源環境保全のために、周辺自治体との連携を今後強化する方向。	C			○	
			原水水質			C		○	
			取水量及び内訳			C		○	
		人口	行政区域内人口		B			○	
			給水人口・給水区域内人口			B		○	
			普及率			B		○	
			行政区域内人口			B		○	
		給水量	給水量等	給水区域は平成〇年の合併により拡大し、給水量もこれにともない増加。	C			○	
			給水区域・給水面積			C		○	
			有効水量・無効水量			C		○	
内的要因	経営・組織	従業者数、技術者数	職員数及び内訳	職員数は微減傾向であるが、平均年齢が高く、特に今後5年間で多くの技術職員が定年退職するため、技術力の低下が懸念される。	B		○		
			職員年齢等			B		○	
		委託状況	浄水施設の運転管理に関する業務委託	現在すでに委託しているが、いずれも単年度契約。浄水場については、土日夜間業務委託を実施。	B			○	
			水質試験・検査に関する業務委託			B		○	
			汚泥・排水処理に関する業務委託			B		○	
			施設・設備・管路・システムの点検・保守に関する業務委託			B		○	
			給水装置・メーターに関する業務委託			B	○		
			料金・窓口受付に関する業務委託			B		○	
		施設・設備	施設・設備	公称施設能力	各施設については、一部耐用年数を超過しているものがあるが、更新計画を策定済み。  浄水場は耐用年数を大幅に超えており、早急な建て替えが必要であり、検討委員会を今年度中に設置予定。  老朽化した施設、設備については随時更新予定。石綿管はすべて布設替え済みであり、経年管の計画的更新を進める。	B		○	
				取水施設		B		○	
貯水施設	B					○			
導水施設	B					○			
浄水施設	B					○			
送水施設	B					○			
配水施設	A					○			
管路施設	A					○			
耐震化状況	取水施設耐震化状況			主要施設については、耐震調査済み。今後は耐震工事計画を検討し、工事を実施する。		B			○
	貯水施設耐震化状況						B		○
	導水施設耐震化状況	B			○				
	浄水施設耐震化状況	A	○						
	送水施設耐震化状況	B			○				
配水施設耐震化状況	配水施設耐震化状況	耐震化は一部の管路のみ実施済みであり、大部分は未実施。配水幹線管の更新終了後に順次耐震化を実施予定。	A		○				
	管路耐震化状況			A					

細分類毎に対応レベルや対応時期が異なる場合には、別項目として記述。

対応レベル・対応時期を細項目毎に記入。  
記入の方法については、29、30頁を参照。